

# いきいき 行田人

## 「2012地球にやさしい作文・活動報告 コンテスト」で、文部科学大臣賞を受賞

加藤良寛さん（14歳・埼玉）

「環境のために、一人ひとりができること」をテーマに、環境保護に関するアイデアや実践活動例を募った「2012地球にやさしい作文・活動報告コンテスト」。今月は同コンテストの作文・活動報告部門で、文部科学大臣賞に輝いた埼玉中学校2年生の加藤良寛さんを紹介します。

禅寺で生まれ育った加藤さん。父親が禅僧ということもあり、「物を大切に」「食べ物や粗末にしない」さらには「環境に配慮する」といった生活を幼いころから強く意識してきました。それでも父親から、冷蔵庫を開ける時間やシャワーを利用する時間をチェックされ、時にはしかられることも。「エコな生活を送るためには、うるさく言われるのは仕方がない」と思う反面、「こんな大変な生活はエコというよりセコ（＝せこいの略）だ」と息苦しく感じていたそうです。

そんな加藤さんが今回受賞した作文「エコ



でセコな暮らし方」は、自宅に設置された住宅用太陽光発電システムとエコキュート（自然冷媒ヒートポンプ式給湯器）を題材にしたもの。モニターで毎日の発電量や消費量、売電した電力をチェックすることで、消費量を減らすことに達成感を覚えるようになり、「つらい」と感じていた節約生活が「楽しい」と感じられるようになったというエピソードを紹介しています。「自分の日常生活を紹介するのは恥ずかしいけれど、このとき感じた気持ちを素直に書こう」と夢中で鉛筆を走らせたそうです。

さらに、「環境にやさしい暮らし方をしていくことに充実感を得られるか、得られないかは考え方次第だ」と実感したことをつづり、これからは楽しみながら、エコな暮らし方を探求していきたいと締めくくっています。

コンテストに参加したことで、より一層環境問題に対する意識を高めることができた加藤さん。現在は、父親がキャンペーンモニターとして電気自動車に乗っているということもあって、環境への負荷を低減する電気自動車に注目しているそうです。「自分が車を運転するところには、電気自動車が社会に普及していればいいですね。僕もそのドライバーの一人になりたいです」と笑顔で語ります。

地球にやさしい明るい未来を思い描いている加藤さんは、今日も楽しく「エコ（＝セコ）ライフ」を送っています。

# 私の作品

## 俳句

本丸 諸貫 節子  
新しい自分に出会う初暦

荒木 増田 時枝  
花の数増えて日向の福寿草

押上町 小野寺由美  
成人の晴れ着姿に母涙

富士見町 森原 育子  
年明けて百才までにあと五年

渡柳 長森 イセ  
神の恩卒寿に貰う胡蝶蘭

白川戸 松本 忠之  
文鎮の居場所が決まり筆始め

城西 新井 恒雄  
成人式背おしい孫ももう二十才

城西 西田吉之助  
小正月家訓の伝え飾り付け

荒木 藤田 栄之  
道端に猫の一生霜柱

城南 関口 操  
壮大な鋸山や梅の花

◎皆さんの作品を募集しています。  
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へ応募ください。

矢場 鈴木かづの  
細雪やむこと知らず終夜

谷郷 富山 由喜  
松飾無き家々の増えにけり

長野 吉野 らん  
小豆粥母が作りて長寿かな

佐間 須永 節子  
天気図の線緩やかに春近し

天満 青柳 欣吾  
福は内広き境内吾一人

（木島 斗川 監修）



「古墳の桜」(写真) 半田充右 (南河原)

塚田 大地ちゃん・大志ちゃん(持田)  
父・弘幸さん 母・頼子さん  
平成24年3月13日生まれ  
「これからもヨロシクね。」



新井 惺也ちゃん(長野)  
父・仁さん 母・絵梨加さん  
平成24年3月2日生まれ  
「たくましい子になってね!」



田口 心晴ちゃん(持田)  
父・聡さん 母・真理子さん  
平成24年3月8日生まれ  
「心晴ちゃんがいて幸せです」



宮野 真帆ちゃん(城西)  
父・敬大さん 母・理加さん  
平成24年3月13日生まれ  
「我が家の太陽です。」



伊藤 優冴ちゃん(桜町)  
父・昌弘さん 母・麻美さん  
平成24年3月7日生まれ  
「いつも優しく 時には強く」

平成24年5月生まれの  
お子さんを募集します

○3月1日(金)～29日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)  
※応募要領は市ホームページをご覧ください。  
○応募者多数の場合は、4月2日(火)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



## さわやか サークル

## 健康体操クラブ

～体操で心と体を健康に～



この体操は「クラブで覚えた動きを家庭でも実践してもらい、普段から自分の健康に気を付けてくれたら」という思いを込めて釜屋さんが考案したものです。中国でいうラジオ体操の「練功」から始まり、音楽を聴きながらボールやゴムチューブを使った体操やストレッチを行うなど、体操メニューは多岐にわたります。ゆったりとした動きで無理なく続けられるのも、この体操のいいところだそうです。メンバーの皆さんは、体操を行うときのポイントや効果、さらには季節に応じた健康管理の方法など、釜屋

太井公民館で平成7年から活動を続けている同クラブには、40歳代から70歳代の男女合わせて23人のメンバーが所属しています。毎月第1・3土曜日の午前10時から11時30分まで、スポーツインストラクターである釜屋恵美子さんの指導のもと、整体や太極拳、ジャズダンスなどを取り入れたオリジナル体操を行い、心地よい汗を流しています。

毎日健康で過ごすためには、適度な運動が欠かせません。今月は、「自分の健康は自分で守る」をモットーに体操を通して日ごろの運動不足・ストレス解消に努めます。



▶問い合わせ 栗原 ☎090-1535-4460

皆さんのアドバイスに耳を傾けながら、全身をくまなく動かしています。クラブでの活動を通して、健康づくりに対する意識が高まったメンバーの皆さん。家庭に戻っても、家事をしながら足踏みをしたり、テレビを見ながらストレッチをしたりと、日常生活に体操を取り入れ「体操を始めて体が軽くなった」とその効果を実感しています。また、体の調子が整うと、自然と心も明るくなり、笑顔になれるそうです。「明日の活力を生み出し、いつまでも若さを保つ秘訣は、日々の健康体操です」とほほ笑むメンバーの皆さん。その生き生きとした笑顔からは、自分の健康づくりに対する絶対の自信がうかがえました。健康づくりの達人へ。さあ、皆さんも同クラブの皆さんと一緒に、健康づくりへの第一歩を踏み出してみませんか。